

第4報告課題 教科書P30~P37

教科書、学習書をよく見て空欄をうめましょう！

☆確率

ある事柄が起こることが期待される程度を表す数値を『**確率**』といいます。

—A—

1.

(1)

大 \ 小	1	2	3	4	5	6
1	2	3	4	5	6	7
2	3	4	5	6	7	8
3	4	5	6	7	8	9
4	5	6	7	8	9	10
5	6	7	8	9	10	11
6	7	8	9	10	11	12

目の和が9になるのは左の表の○のついている4通り。
赤字の9の場合は、
大のさいころが6、小のさいころが3だから、(6, 3)
と表す。4通りのそれぞれを同様に表して、
{ (6, 3), (,), (,), (,) } と表し
ましょう

上の表からわかるように
目の出方は、全部で **36** 通りあります。
そのうち目の和が **9** になるのは **4** 通りあるから、
目の和が9になる確率 = $\frac{\text{目の和が9になる場合の数}}{\text{目の出方の総数}}$

—B—

1.

手順1: 全ての取り出し方が何通りあるか求める。

10個の球から同時に2個の球を取り出す取り出し方は全部で ? 通り

$${}_{10}C_2 = \frac{{}_{10}P_2}{2!} = \frac{10 \times 9}{2 \times 1} = ?$$

手順2: 取り出した球が同じ色である場合は何通りあるか求める。

その場合、同じ色になるのは「2個とも赤球である」場合と「2個とも白色である」場合とある。

「2個とも赤球である」場合は、赤球5個から2個取り出すからその取り出し方は ? 通り

「2個とも白色である」場合は、白球5個から2個取り出すからその取り出し方は ? 通り

手順3: 「2個とも赤球である」場合と「2個とも白色である」場合のそれぞれの確率を求める。

手順4: 手順3で求めたそれぞれの確率をたすと、求めたい「取り出した球が同じ色である」確率が求まる。

2. 『余事象』の考え方を利用しましょう。余事象とは、「事象A」に対して「Aが起こらない」という事象のことで、 \bar{A} と表す。。

1から『1枚もあたらない、つまり2枚ともはずれる確率』を引くと求めたい確率が求まります。

↑
『余事象』といいます。